



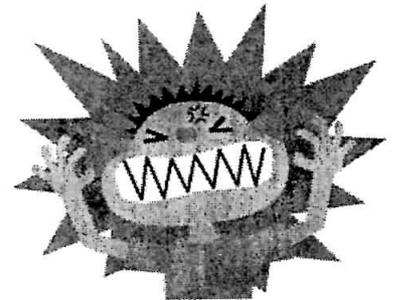
3学期のはじめに当たって

年末年始の休みが終わって、3学期が始まりました。一昨日の始業式に子どもたちに話したことは、「心を成長させよう」ということです。人は、食事をしたり運動したりすると体が成長します。頭を使っているいろいろな問題の解き方などを考えると頭が成長します。だから、心を成長させるには、心を働かせればよいのです。自分のことを考えるのと同じくらい、友達や家族のことを思いやることで、心は成長します。そんな話をしました。

「キレない子」に育てるために

正月早々、こんな話で恐縮ですが、先ほどの「心の成長」と少しだけ関わりがある話です。本校だけではありませんが、最近、キレる子が目立ちます。キレる子は、友だちや大人に対して突然、暴力を振るったり暴言を吐いたりします。いままでニコニコしていたのが急にキレたり、注意されるとキレたりします。

教職員の間では、そうした行動を「自分を見てもらいたいため」と考え、「子どもの気持ちを受け止めよう」と話し合っていますが、優しくするとエスカレートします。そこで、「子どもの気持ちを受け止めることは、子どもの言いなりになることではない。子どもの存在は受け入れつつ、人間として『してほしいこと』は毅然としてやめさせよう。そして、子どもと相互受容的な関係をつくろう。」と努力しています。



ある書物によると、キレる原因として、一つには、体罰も含めて厳しすぎる躰を受けていることが考えられるそうです。これまでは、過保護でわがままに育てられてきたので、忍耐力が育っていないからだという見方が一般的でしたが、最近の研究では、過保護に育てられた子がキレる割合は少なく、むしろ、厳しすぎる躰を受けたり、過剰に叱られたりした子どもがキレる割合が多いというのです。

親としては愛情のつもりではあっても、キレる状態まで叱り続けると悪循環になってしまうそうです。そんなときは、子どもへの要求水準をぐっと下げるとよいとのこと。「できて当たり前」ではなく、「子どもなんだから、できなくても普通」と思い直して、子どもなりの頑張りを見つけていくようにするとよいとのこと。

もう一つ、キレる子は、自分の気持ちをうまく話せない子が多いのだそうです。

生まれつき苦手な場合もありますが、自分の気持ちを大人にしっかり聞いてもらっていないため、話せなくなってしまったケースも多いのだそうです。子どもは、人に話すことで自分の気持ちや考えを自覚し、人に認めてもらうことで心も頭もすっきりできます。

自分の気持ちを表現でき、自分で考える子どもを育てるためには、子どもとの会話を大切にすること、そして子どもの気持ちをくんで、言葉にして返すことが大切なのだそうです。「だからそう思ったんだね」とか「あのことを、そう感じちゃったのか」など、子どもの思いや状況を言葉にして返してあげることも有効だそうです。

すぐにキレる子は、友達との良好な人間関係を築くことが難しいため、自分がキレそうになったときに、どうしたらその気持ちを静めることができるかという術(すべ)を身に付けさせたり、自分の気持ちや考え、相手の気持ち、その場の状況などを自覚し、自分で考えてよりよい方法を選択できるように支援していきたいと思います。ご家庭でも、ご協力よろしくをお願いします。